第11回 RGAAクラブ「音の展覧会」

2009年11月22日開催

出展作品

(1) 開放磁気回路による大型ユニットの協演
大沢久司・佐藤 勝・室井 清

(2) 低域補正をした抵抗制御型システム2種
芹沢貴清

(3) P-610フェルト・バッフル・システムの追求
杉沼一郎

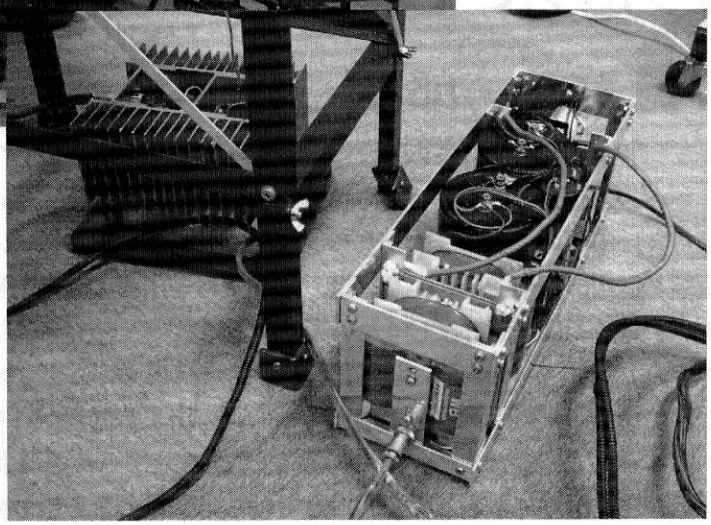
(4) 直流磁化を打消したPPトランスによる300Bシングル
多賀政信

●パワー・アンプからCDプレーヤまですべて手の入ったシステムを持ち込まれた杉沼氏はとても80才過ぎとは思えないカクシャクぶり

カドン」という偽物の低音出して，それを低音が出ると思い込ませること，前から出る音は後を閉じてもリズムは乱されないということで，騙せるわけです．低音が偽物ですから，楽器本来の美しい音ではありません．

今回鳴らしたスピーカ・システムは上記の現象は起きていません．表に示すとおりです．

今回の鳴らしは，荷物の搬入が遅れてブッツケ本番でよく調整していないので，たいへん失敗をしてしまいました．大きな音が出ることだけに注目して，音が汚い音になっていることが私の席からはまったくわかりませんでした．しかし，16 cmのP 610のスピーカであんな大きな音が出た例はいままでなかったことだと思っています．

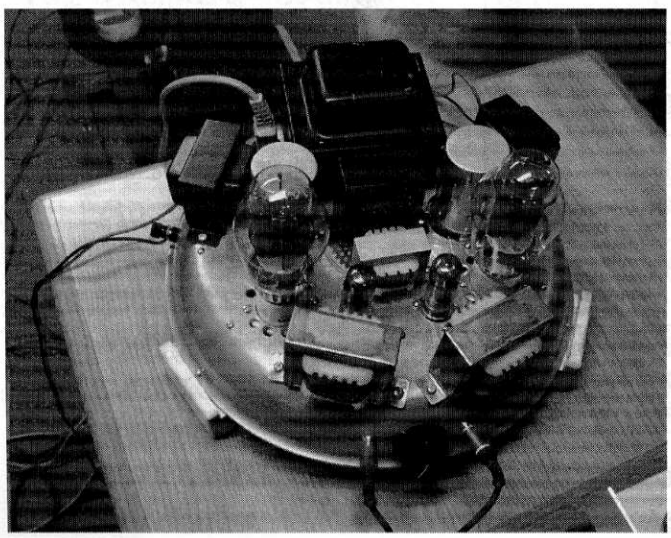


●特注の大型チョーク電源を備えた杉沼氏のアンプは定電流型

それからもう一つ，限られた時間でできるだけ曲目をかせいだこと，いろいろの曲目に対する適応は十分示されたと思います．残念なことは肝心のピュア曲が時間がなくて少かったことです．テストには最も有力なものだったのですが．

直流磁化を打消したPPトランスを使った300Bシングル・アンプ

■ 多賀政信 ■



◀フライパン風の丸鍋(?)に組み込まれた300Bシングル・アンプ

シングル・アンプの出力トランスは直流を重量して使用されます．トランスにとっては苛酷な使われかたです．そこでPP型出力トランスを利用して，直流重畳のないシングル出力トランス型の回路を考案しました．さて，どんな音がするのか．皆

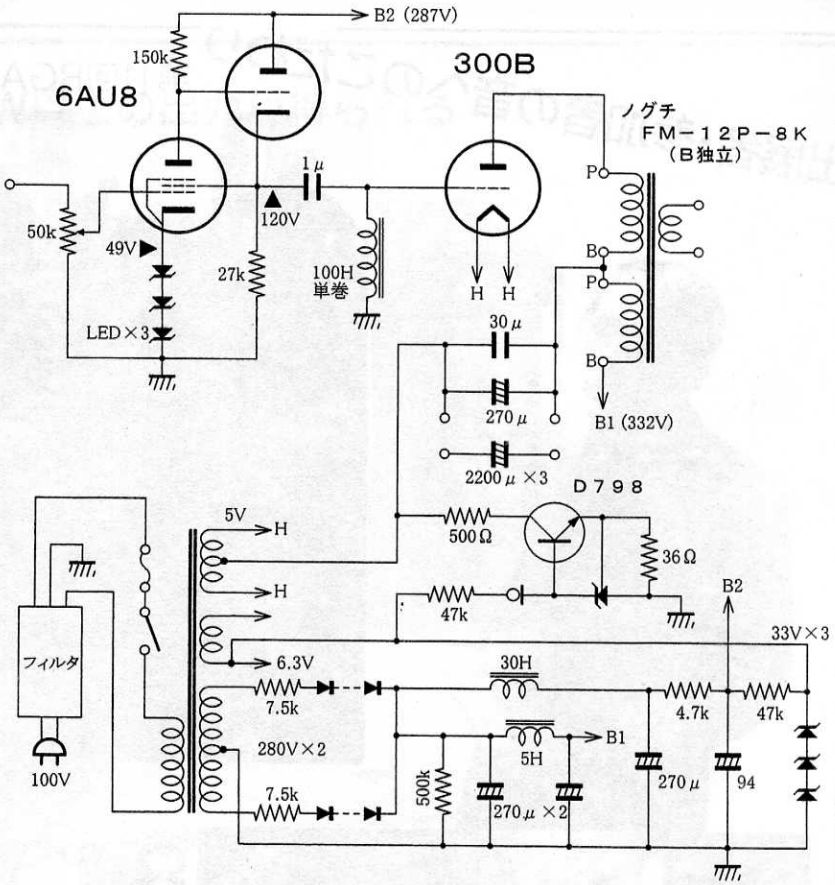
さんに聴いていただくことにしました.

アンプが組み上がったのは，発表会当日の朝でした.

電源はスライダック・トランスでゆっくりと昇圧しました．煙と火花が出ないことを確認しながらです．おおまかに各部の電圧をチェックし，CD プレーヤ，スピーカをつなぎ音出しです.

一声，ひどい音でした．徹夜で酒をちびりちびりやりながらの組立てで，これ以上力も気力も出ません．煙が出ないで音が出たからまあいいだろうと開きなおって，失敗作(？)の発表になりました．RGAA——音の展覧会，初の失敗作の発表です．“泣く子と地頭には勝てぬ”の諺が思い浮かびました.

その後，何かこのアンプに手を加えないと，と思っていながら 3 週間くらい経ちました．2200 μF を 3 コ並列にしたコンデンサ・ボックスを作りましたが，とりあえずこれをアンプにつなぐ前に，失敗アンプに火を入れて音出しをしてみると，発表会の日より音はよくなっています．多分電解コンデンサの電極の形成が進んだのでしょう.



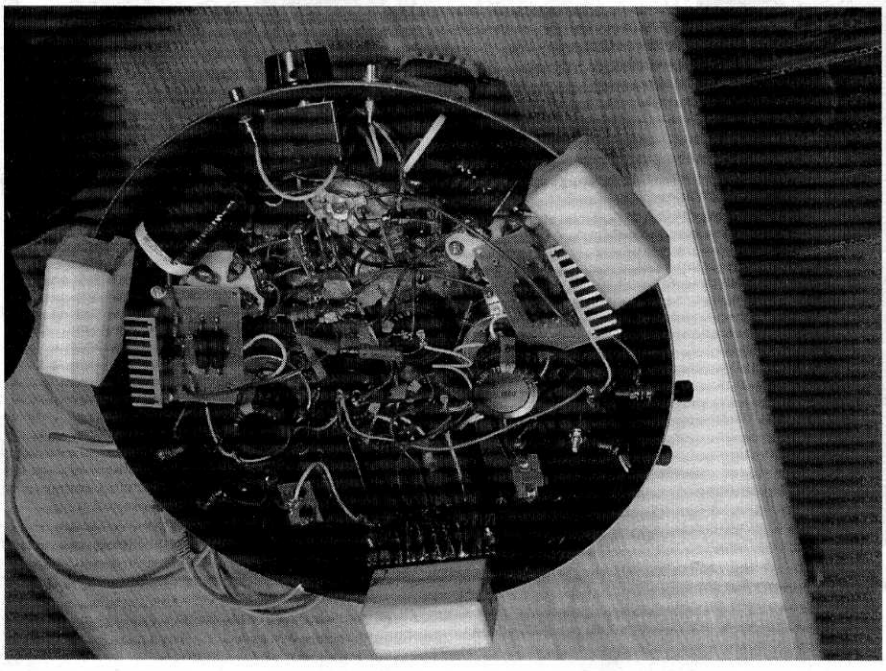
● PP トランスの 1 次件側に直流を流して磁化を打ち消した 300 B シングル・アンプ

回路図のように 2200 μF×3 をアンプに接続，突入電流で回路がこわれないよう，スライダック使用の火入れです．出て来た音はサマになっているんです！　いける.

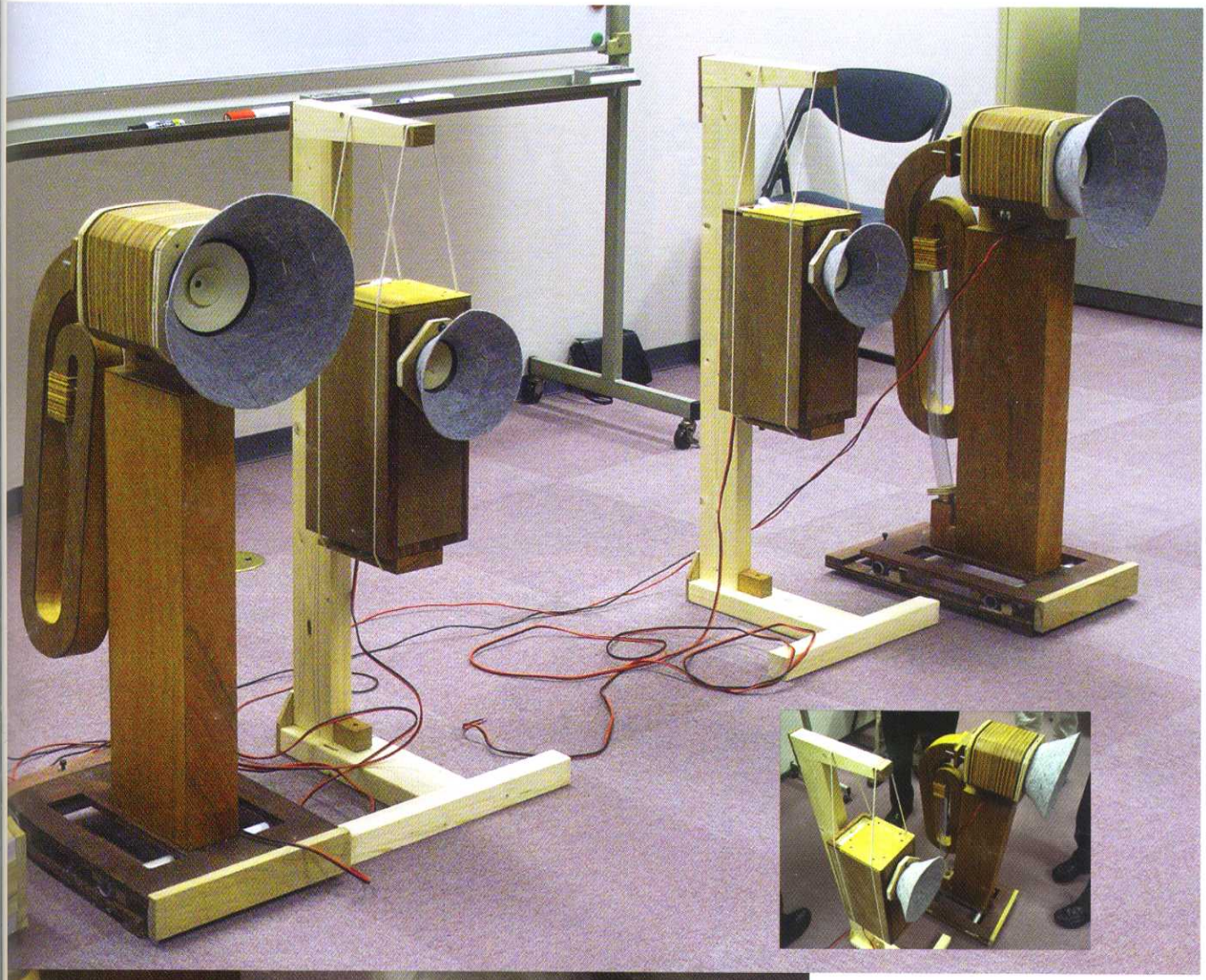
参照アンプとしてタムラ 75 周年記念 300 B パラレル・アンプを引っぱり出しました．本失敗アンプの方が音はいいんです．音楽は休止符を聴くものですが，その休止符がいいんです.

この日は，RGAA の会に出席した近所に住む佐藤温夫さんにご足労願いました．自分の評価はアテになりません．佐藤んの談は「低音が足りない」．有難いご意見です.

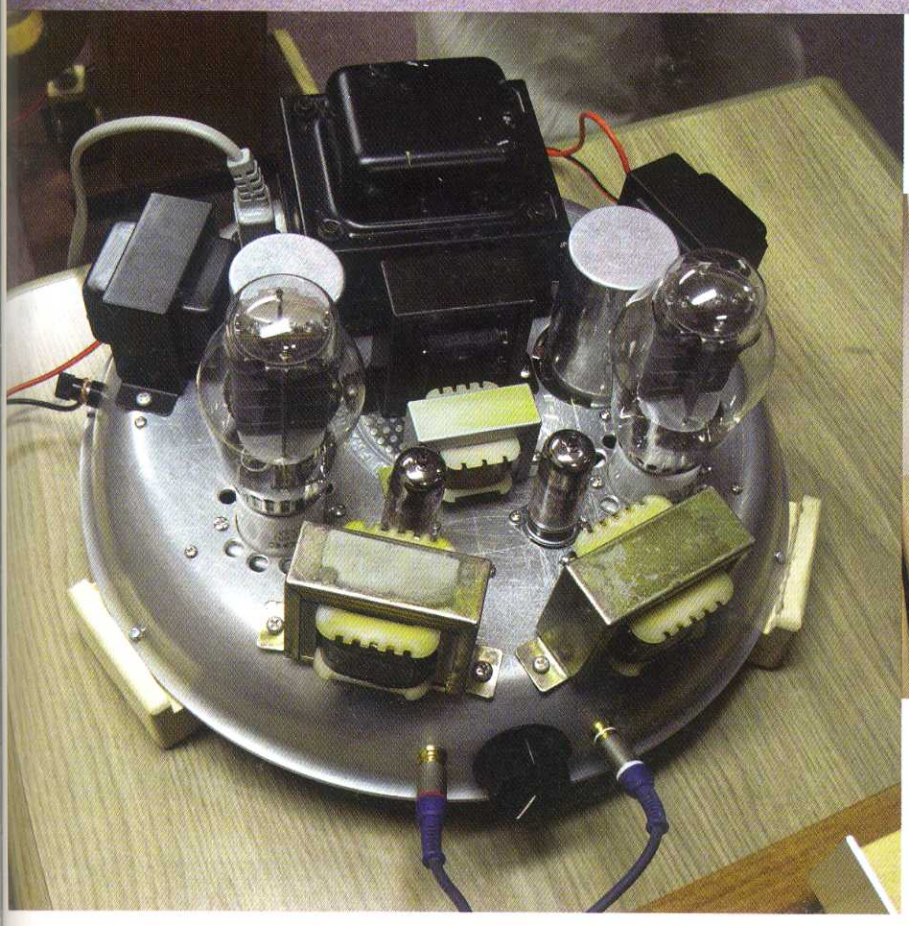
つぎの楽しみはスライダック不使用の電源 ON です．何か起ることを期待しています.



会」デモンストレーション風景



◆芹澤清貴氏の10cmフルレンジ・
ホーンSPシステム



◆特別展示
竹森幹郎氏製作 3台のアンプを展示
（手前は6BQ5AB2-PPアンプの内部）

◆多賀政信氏の直流磁化打ち消しPP
トランスによるシングル・アンプの実験